

学 年	教科等	題材名	日 時
第 6 学年	音楽科	じゅんかんコードをもとにアドリブで遊ぼう (第6時)	令和 7 年 10 月 3 日 (金)

1 本時の目標

即興的な表現をとおして表現の仕方についての発想を得たり、まとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりすることができる。

2 本時の指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
1 仮完成したマイアドリブ設計図を基に試しの表現を行い、本時のめあてを設定する。 ○ 曲想・思いや意図 ○ 試しの表現 ○ 本時のめあて リズムや旋律などを工夫して、グループで曲想に合った表現をめざそう。 2 学習内容を確認し、見通しをもつ。 ○ 見通し ・ グループでの聴き合い ・ リズムや旋律等の工夫 ・ ペアグループ同士の聴き合い 3 グループでそれぞれの表現を聴き合い、リズムや旋律等を工夫する。（★） ○ 仲間の表現の聴取 ・ 「みんな旋律の動きを工夫しているな。ぼくも、もう少し変えた方が曲想に合うかな。」 ・ 「〇〇さんのリズム楽しそうだな。真似してみようかな。」 ○ リズムや旋律等の工夫 ・ 「ここはドシ（♪）にしようと思っていたけど、ドシシ（♪♪）にした方がみんなと合いそうだな。」 ・ 「〇〇さん、ここのリズムはどうやって演奏しているの？」 4 ペアのグループ同士で表現を聴き合う。（★） ○ 表現の工夫 ・ 「〇〇さんの演奏を最後にした方が、もっと盛り上がる感じが出ると思うよ。」 ・ 「優雅な感じをもっと表現したいな。最初と最後の人は旋律の動きを少なくしたらどうかな。」 5 本時学習をふりかえり、次時への見通しをもつ。 ○ 工夫したこととその理由 ・ 「元気で明るい曲にしたいから、楽器の音を強くしたり、速度を速くしたりしたよ。」 ・ 「もう少しリズムを工夫したいな。」 ○ 代表グループによる表現 ○ 次時の見通し	○ 前時にグループで捉えた曲想や表現への思いや意図を提示していくつか紹介することで、自分たちのグループの曲想や表現について見つめ直すことができるようにする。 ○ 試しの表現を行った後、曲想に合った表現ができたかを問うことで、工夫の余地があるという発言を引き出し、めあてを立てることができるようにする。 ○ 本時は、曲想に合った表現に近付けるためにアドバイスをし合いながら表現を工夫する活動を行うことを確認することで、本時の見通しをもつことができるようにする。 ○ グループで聴き合う際には、曲想や思いや意図を掲示したボードを常に見える位置に置かせることで、それらを意識しながら表現を工夫することができるようにする。 ○ 曲想や思いや意図を表現できているかという視点で聴き合うよう促すことで、よい点や改善点について見つめることができるようにする。 ○ リズムや旋律等、表現を工夫できそうな視点を示し、どれを工夫するとよさそうかを問うことで、自分たちの表現を見つめ直し、工夫することを選択して、よりよい表現をめざすことができるようにする。 ○ 机間指導の際は、グループの思いや意図に合った方法で練習しているかを確認し、アドバイスすることで、自分たちの表現を客観的に捉え、表現を変容させるきっかけにすることができるようにする。 ○ ペアのグループ同士でそれぞれの表現を聴き合う活動を設定することで、他者に伝えるという意識をもって表現したり、自分たちの表現と比較したりすることができるようにする。 ○ 本時工夫した点とその理由を問うことで、自分たちのグループの成果や課題等について見つめ直し、さらによりよい表現にしたいという思いや意図をもつことができるようにする。 ○ 代表グループの表現を聴く時間を設けることで、アドリブフェスティバルに向けた期待感や次時への見通しをもつことができるようにする。

3 本時の評価規準

即興的な表現をととして表現の仕方についての発想を得たり、まとまりを意識した音楽をつくるかについて
思いや意図をもったりしている。
(思考・判断・表現)【行動観察・記述分析・演奏】

4 板書等



優しい音色で、音の重なりを意識して演奏したい。

1小節につきアドリブを1音以上入れて、強い音で演奏したい。

近い音を選びながら、和音に合うようにアドリブをしたい。

ゆっくりしたテンポに決めたので、それにリズムを合わせたい。弾んだ感じではなく、2分音符などを入れて演奏したい。

【展開段階での子どもの思いや意図（記述）】

5 指導講評

宮崎県教育庁 人権同和・生徒指導課 有田 雅代 指導主事

- 全員に記譜をさせることで、すべての子どもたちが演奏をすることができていた。そのなかで、曲想に合った表現をめざし、思いや意図をもって活動する姿が見られた。
- 音楽を形づくっている要素のうち、「何をどのように」工夫するのかという思いや意図のたたきつけ方については、子どもがよりよい表現をめざすうえでもさらに追究していく必要がある。
- 演奏をすることに必死で、感じ取った曲想を基に思いや意図をもっているかについては判断しづらい子どももいた。そのような子どもに対する手立ても考える必要がある。
- 本題材において、子どもが自分たちの表現から曲想を感じ取るにあたり、あえて伴奏をなくしたり、数種類のコード進行を用意したりすることも考えられる。子どもに委ねる部分を増やすことで、子どもは様々な角度から曲想を感じ取ることができたのではないかと考える。
- ふりかえりについては、多くの子どもが言語化することはできていたが、音楽の言葉を使って言語化できるとよい。そのために、日頃の授業のなかで、学習内容と音楽を形づくっている要素を結び付ける活動を多く設定し、知識を身に付けていく必要がある。そうすることで、子どもは知識と実感したことをつなげてふりかえることができるのではないかと考える。
- 学習プリントを基にふりかえりを言語化させるという手立てについては、今後も子どもが経験を積み重ねていく必要がある。表現の変容を実感させるために、学習プリントの活用のさせ方を含めた授業構成をさらに工夫していくとよい。

6 考察

【研究内容1：曲想に合った表現へと変容させるための手立て】

- 即興的な表現について学習するにあたっては、いくつかのコード進行や、違う速度のものを提示するなどの工夫を行うことで、感じ取ることのできる曲想の幅も広がり、グループならではの表現の工夫が生まれたのではないかと考える。
- 曲想を感じ取ること自体に課題をもっている子どもがいるため、全体で曲想に合った表現の仕方を共有する時間を設定したり、対話を生み出しやすくするようなグループ活動の工夫をしたりする必要がある。

【研究内容2：ふりかえりを基に表現の変容を実感するための手立て】

- 子どもがよりよい表現をめざすためには、ねらいとしていた「比較する」という省察の姿を焦点化する必要があった。比較対象を整理したり、比較後の共有のさせ方を工夫したりする必要がある。
- 自分たちの表現を客観的に捉えることが容易ではないことを鑑みると、自分たちの表現を「見つめ直す」ための手立てとして、仲間同士で表現を評価し合ったり、表現に対してアドバイスし合ったりする時間の設定等が必要である。